



令和3年7月5日  
令和3年度学校だより NO.14①  
加古川市立平荘小学校

## 1学期のまとめの月です

7月になりました。子どもたちは、生活面、学習面ともにまとめの時期に入りました。生活面では、4月に『気持ちのよいあいさつをしよう』、5月に『時間を守ってきばき行動しよう』、6月に『スリッパをそろえてぬごう』、そして、7月に『暑さに負けず元気にすごそう』の生活目標を掲げて生活をしてきました。学校という集団で生活する場で、自分も自分の周りの人も気持ちよく過ごせるよう、子どもたちがさらに意識しながら生活ができるよう関わっていきます。ご家庭でも、声かけをお願いいたします。

学習面でも、1学期の学習のまとめをしています。1学期を振り返り、得意なことはさらに力を伸ばせるように、そして、苦手なところはそのままにせず復習をしながらまとめを進めています。ご家庭でも、ご協力をよろしく願いいたします。

平荘っ子のみなさん、学習のまとめをするときに、どんな勉強の仕方をしていますか。

例えば、まとめの練習問題をするとき、①まとめの問題を1度だけ解く。(答え合わせなし) ②まとめの問題を解いた後、答え合わせをする。③まとめの問題を解いて答え合わせをした後、間違った問題があれば、その問題をわかるまで解く。

さて、どんな勉強の仕方をするか、自分の力が伸ばせるでしょうか。まとめの際に、ぜひ効果的な勉強方法でまとめを試みましょう。

## 『はるかひまわり』がどんどん大きくなっています

児童会を中心に、全校生に広げている『はるかひまわり』絆プロジェクトのお知らせです。5月末に植えた『はるかひまわり』が、どんどん生長しています。大きくなっています。



本葉が大きく育っています。太陽の光をいっぱい浴び、茎もどんどん伸び、太くなってきています。

6月末には、発芽率の関係で、『はるかひまわり』の種を追加で送っていただきました。

本校では、『はるかひまわり』の種を2回に分けて植えることになりました。

種まきの関係でひまわりの開花の時期が変わり、結果、『はるかひまわり』の花を、長く目にする事ができると思います。

元気に育ってくれるとうれしいですね。



## 6年生が平和学習をしています

6月28日（月）に、小林愛子さんを招いて、6年生は平和学習を行いました。

### 《小林愛子さんの紹介》

小林さんは、プロ野球東映や巨人などで活躍した張本勲さんのお姉さんです。小林さんは、小学校1年生の時に広島で被爆されました。その体験を今も多くの人々に語り継ぎ、命の尊さや平和の大切さ訴えながら、平和活動をされておられます。

### 《小林さんの被爆体験より 一部紹介》

小林さんは、当時小学1年生。弟の勲さんは5歳でした。小林さんは、お母さんと4人のきょうだいの5人家族だったそうです。1945年8月6日。この日は、朝からとても良い天気だったそうです。小林さんは、爆心地から約1・5キロの自宅にいました。ピカッと光った直後に窓ガラスが割れ、ドーンという衝撃が走りました。お母さんが、咄嗟に小林さんと勲さんに覆いかぶさり2人を守ってくださったそうです。お母さんの背中には、たくさんのガラスの破片が刺さりました。お母さんは、2人に、「みんなが行く方向に、逃げなさい。」と言って、逃がしました。お母さんは、勤労奉仕に出ていた小林さんの兄と姉を待つと言って、2人と離れました。小林さんと勲さんは、人の流れに合わせて逃げました。大やけどをしている人、皮膚が垂れ下がっている人、亡くなった人……。2人は、逃げながら涙も出なかったそうです。あまりにも恐ろしすぎて、涙も言葉も出なかったそうです。そして、自分たちの着ていたシャツの汚れやおいが気になり、洗おうと川に入りました。いつもは水底まで澄んでいる水が、この時は、人々の血で茶色く濁っていました。この水を飲んではいけないと思い、そのまま山の方へ逃げました。何時間？何日？経っていたのでしょうか。気が付いた時に、2人は、見知らぬ人からおにぎりをいただきました。この時のことを今も覚えているそうです。お母さんとは、ブドウ畑で会うことができました。兄は無事でしたが、なかなか姉に会うことができませんでした。何日も何日も姉を探し、けが人を収容しているところで、やっと姉を見つけました。「おねえちゃん」と呼ぶと、小さな小さな声で返事が返ってきました。小林さんたちは、やっとお姉さんに会うことができました。小林さんは、お姉さんの最期をどうみとったかはよく覚えていないそうです。

最後に、小林さんは、「命を大切にすること」「感謝の気持ちを忘れないこと」「夢をもち、夢に向かって努力すること」が大事だと語られました。



6年生は、大変真剣に話を聴きました。

小林さんに、「なぜ、語り部をされているのですか。」と、6年生が質問をしました。

小林さんは、「当時のことを話すのをずっと断ってきましたが、ある小学校の子どもたちが真剣に話を聴いてくれる姿を見て、自分が体験したことを絶対に話さなくては駄目だと感じました。戦争反対。核兵器反対。平和のために、自分が生きている限り実体験を伝えていきたいと思っています。」と答えられました。